一億円の花束

（辰巳会観月例会）

十河一正

仲秋の名月を観賞しながら楽しい例会を白砂青松の舞子ビラー（元有栖川宮別邸）を選んで催したのでありますが生憎台風二十号の前兆のためか雲が多くて月が隠れて見えず、でも百三十余名の盛況でありましたことはいつも皆さんの会に対するご愛着のあらわれと幹事達嬉しく大いに張り合いを感じておる次第であります。

今日の席上で浅田神鋼会長から大変ありがたい重大なご発言がありましたので、この席にお集まりの方々は充分お聞き及びと存じますが全国の皆さんに重ねてここに内容を記録させて頂きます。即ち氏はいつもの赤いネクタイを締め頗るユーモラスな態度で曰く「お互いに齢を重ねていくことは致し方なしと雖も折角この辰巳会が温故知新楽しい集りとして出来ましたが、ただ時々逢って食って話して別れていくだけでは実に心もとないではないか。会としてこの際何か素晴らしい仕事をしたらどうだ、何かを計画して活動したらどうか、一億くらいの資金は左程むつかしい事ではなかろうじゃないか」と実に破天荒なる一言。

このことについてはかねがね幹事一同が発会当初から、色々研究し又論議してきた第一の問題で浅田先輩のこの力強い尊いご発言はまことにありがたい金石として是非ともこの際、熟慮実現に邁進致したいものと決意をする次第でございますので各位におかれても何卒絶大なるご指導とご援助のほどをあらためてお願い申し上げます。

氏は又曰く

「過般、喜寿の祝品として見事なる輪島塗の大杯を貰ったが、一言したいことは私は未だ老年ではない、私は多くの人々から押されて明石海峡に四国への架橋運動の先達を承っておる。又神戸港内に何百万坪の土地を埋立てて大神戸の発展に大いに力を入れる役割をつとめておるので、十年や二十年は元気で活き抜かねばならん、架橋の上はその橋を渡ってみなければならん、だから今度の大杯は仕舞っておいて米寿の祝には是非大金杯を抱かせて貰いたいと念願す」との大気焔あたるべからず頼母しい一言会場は沸き返り、淡路海峡に夢の架け橋が出現した以上の私どもは胸の打たれる思いがした。

そして感ずることは吾々も大いにこの際浅田大人に負けず、緊禅一番間近かにせまる計画中の辰巳会（法人関係）を益々意義ある会に飛躍することを誓いたいものです。

又氏は最後に曰く「舞子ビラーも一万坪に余る広地、オリエンタルの経営、私はその役員ですからこれも何かよい考案をしたらどうだろう」と折りしも閉会近く明月は雲から出て一同の喜びの貌の上に明るく照り輝きました。

（桜運輸重役）

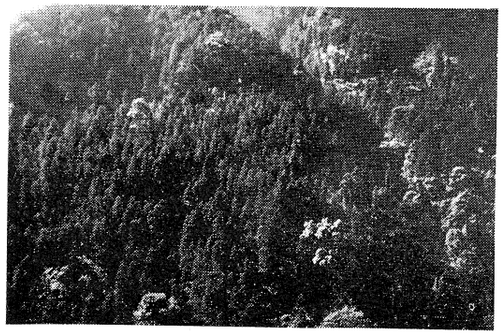
稲妻に危き径を踏み分けて
新涼や木立に光る夜の風

福田豊丘

社名変更御挨拶

弊社は帝国樟脳株式会社として永年各位の御支援により伝統ある事業を経営して参りましたが樟脳専売事業の廃止など諸情勢の変化に伴い八月十五日を以って太陽林産株式会社と改めて主力を一般林業経営に置き新発足する事となりましたので今後とも何卒宜敷く御引立を賜り度御願申上ます。

太陽林産株式会社



太陽林産KK山林（徳島県海部郡）

特報!!

法人会員制設立案

去る十月七日本部に於いて辰巳会幹事の緊急会議を開き、従来続けて来た個人会員制に加え法人会員制を敷く事の審議を致しました処一同の承認を得ましたので着々其の方向にとり進むことと決しました。就いては、今後貴社旧倍の御讃同に依って本会の強化を計り度この際誌上からも宜敷く御願い申上げます。

趣旨

辰巳会が旧鈴木商店並にその関係会社に勤務されていた人々の旧交を復活し親睦を計ることを目的に昭和三十五年十月神戸国際ホテルに於て発会式を挙げてから既に四年が経過しました。此の間懇親会を開催すること二十一回、出席人員は実に延二千数百名に及び、発起人幹事一同も予想しなかった盛況を続けているのは偏に会員諸氏の熱心なる御協力御支援の賜と衷心感謝致して居ります

これで、旧鈴木関係者の交誼親睦と云う第一目的はほぼ達成せられましたので、此の際、本辰巳会を更に一層有意義なものとする為、個人で構成されている本会に新たに法人の参加を願い、鈴木が創立開拓した諸事業、諸会社の友好融和を計り併て本会の永続発展の途を講じ度き所存であります。旧鈴木関係者を対象に結成された本会は、会員を、鈴木が解散を余儀なくされた昭和二年四月又はそれ以前の鈴木在籍者に限定しなければならなかった為、会員は年少者と雖も六十才を数え、七十才八十才の高齢者も多数あります。これは慶祝す可きことではありますが、現状を以てすれば会員は年と共にその数が減少し、十年、二十年後には会の存続さえ困難になることが予想されます。会では会員逝去の場合その遺族を準会員の名称で名簿に登録し、会員数の維持を計って居りますが、今後本会が之等準会員に依って運営発展 出来るとは 期待致 しかねます。

年と共に個人会員数が減少し行く一方、明治以来今日迄鈴木が創立した会社、開拓した事業は、更にそれから派生した子会社を加え数十を数え（金子直吉伝には已に五十余社が挙げられている）之等は今日何れも隆昌発展し大部分は業界のトップクラスにあるのみならず、帝人、神鋼、日商の如く世界的水準に達したるものさえあり吾々辰巳会員の誇りとする所です。

之等の会社は今日でこそ独立した大組織となり業種の異る他社とは無関係没交渉の状態にありますが其の根源にさかのぼれば名門「神戸の鈴木」を母体として産れ出た兄弟姉妹にほかならないのですから各社はこの事実を再認識して、現在の会社代表が鈴木出身者であるとなきとに拘らず、吾が辰巳会に来加せられ今度の会の機構を改造し、法人会員制設立に御賛同御支援あらんことを切望する次第です。

母体の鈴木解散後、三十七年の長年月を経たる今日、之等会社の代表者、担任者には鈴木に対し全く無関心の方が多数居られることと思いますが、創業当時の担任者諸氏はお互に鈴木商店で文字通り一つ釜の飯を喰った間柄であったことを思えば再度、之等会社が辰巳会で一団となり親類附き合をすることは意義無きに非ず、否、斯る会社にこそ辰巳会は一層意義ある存在となる可く今回法人会員制を設けたのであります。

今日迄の辰巳会が旧鈴木商店員の親睦機関の範囲を出なかったのに対し今後は所謂鈴木系各種企業団体、大会社から中小企業に至る一切を包含したカネタツ精神で結ばれた有機的友好交歓の場所とし発展することを期する次第です。

先頃創刊号を出した会誌「たつみ」もこのような目的で各社に於て利用願えれば一層特色が発揮出来ることと思います。

但し、此処で申上げて置き度いことは辰巳会は法人会員の参加を得ても其の本来の目的たる会員相互の友好親交のための行事以外の行動は一切行わない。従て営利的事業や商取引行為、又法人個人を問わず会員の業務に影響する如き行動は致しませんから為念申上げます。辰巳会幹事会が今度この提案を致すに至った次第は幸にも鈴木の伝統を承継する太陽鉱工並にその子会社に於て鈴木家の外金子、柳田両家諸氏が業務を担当され、前記帝人、神鋼、日商の三社も亦鈴木出身者が首脳者として活躍され居る今日こそ本会を単なる個人の集合より之等鈴木系諸会社を基盤とする意義ある社交団体に発展させる絶好の時機と思考した為です。